

令和5年司法試験合格体験記

令和5年度在学中受験(既修コース) 山之内 薫

19期既修の山之内薫です。

まずは、司法試験受験まで支えてくださった家族、先生、先輩方、資料室・事務の皆さんや友人にこの場をお借りして感謝申し上げます。

私は理系の学部でしたが、大学4年生で司法試験を志し、大学卒業後自宅で1年間勉強をした後、岡山大学法科大学院に入学しました。

諸先輩方から教わった司法試験の極意のうち、私が最も大切にしたのは、「勉強の方向性を間違えないこと」です。司法試験は、制限時間のある試験で、答えは相対的に評価される試験です。例えば、同じ問題を何時間も考え込んでしまうと、結局一番重要なことがよくわからず、実際の試験時間で記述できない答案を作る練習ばかりしてしまいます。また、他の受験生ができない論点に1人だけ気づいたり、皆が分からない考え方を1人だけとったりしても、大多数の受験生ができるところを間違えては、その答案は相対的にはあまり評価されないでしょう。

ローの先生方が、正しい方向へ手引きしてくださいますが、それにうまく乗れるよう、方向性を見失わない意識をもつことが大切です。そのためには、悩ましい論点や起案を一人で悩み結論を出すのではなく、先生や信頼できる先輩・同期に、質問したり答案を見せたりするのが良いと思います。

もともと、司法試験合格のために、「何よりも勉強量が大切」ということも、諸先輩方が口をそろえて言うことです。入学前の私は、ロー入試合格の喜びのあまり勉強をサボったため、勉強量がかなり不足していました。受験生には、同期に限らず、当然先輩もいるので、他の受験生との勉強量の差を考え出したらキリがないですが、その差を埋めるためには、この瞬間から、周りの2倍、3倍勉強するしかありません。そのために、私は、勉強時間をなるべく記録し、量をこなすことも目標にしました。授業を除いた私の勉強時間は、月あたり平均190時間でした。

基本的なことですが、以上が、私が勉強で大切にしたことです。これから受験される皆様の結果が良いものとなるよう、心から応援とお祈りをしています。また、私自身、ローでの学びを活かせるよう、人の支えになれる法曹を目指して一生懸命頑張ります。